

# 公開実用平成 2-149321

4

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

## ⑫ 公開実用新案公報(U) 平2-149321

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>

B 60 K 20/02  
F 16 J 3/04  
G 05 G 15/52  
G 05 G 25/04

識別記号

B 8013-3D  
C 7523-3J  
A 8207-3J  
A 8513-3J

庁内整理番号

⑬ 公開 平成 2 年(1990)12月19日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑭ 考案の名称 レバーブーツの取付構造

⑮ 実 願 平1-58991

⑯ 出 願 平 1 (1989) 5 月22日

⑰ 考 案 者	国 島 俊 憲	愛知県豊田市吉原町上藤池25番地	アラコ株式会社内
⑰ 考 案 者	杉 浦 文 夫	愛知県豊田市吉原町上藤池25番地	アラコ株式会社内
⑱ 出 願 人	アラコ株式会社	愛知県豊田市吉原町上藤池25番地	
⑲ 代 理 人	弁理士 長谷 照一	外 1 名	



## 明 細 書

### 1. 考案の名称

レバーブーツの取付構造

### 2. 実用新案登録請求の範囲

操作レバーの軸部を傾動可能に被覆するレバーブーツの下端周縁部に取付けた枠部材を、車室内フロア上のコンソールボックスの上面側に設けられて前記操作レバーが上下に貫通する開口部の周縁部に掛止して、前記レバーブーツをコンソールボックスに取付けるレバーブーツの取付構造において、前記枠部材として前記開口部の上面側周縁部に戴置される枠部と、同枠部から下方に突出し前記開口の周縁部に設けた挿通穴に挿通されて掛止される複数の脚部を備えた枠部材を採用したことを特徴とするレバーブーツの取付構造。

### 3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案はシフトレバー、トランスファーレバー等の操作レバーの軸部を被覆するレバーブーツの取付構造に関する。

(従来技術)

レバーブーツの取付構造として刊行物「自動車工学便覧第5編第1章第13頁(自動車技術会発行)」に示されているように、レバーブーツの下端周縁部を車室内フロア上のコンソールボックスの上面側に設けられて操作レバーが上下に貫通する開口部の周縁部に掛止して、レバーブーツをコンソールボックスに取付ける取付構造がある。第8図にはレバーブーツ11をコンソールボックス12に取付けた一例が示されており、従来の取付構造においては第9図および第10図に示す手段が採用されている。第9図は第8図の矢印のⅨ—Ⅸ線方向に対応する断面を示し、かつ第10図は第8図の矢印Ⅹ—Ⅹ線方向に対応する断面を示しており、従来は所定の太さの線材からなる枠部材20Aをレバーブーツ11の下端周縁部に縫合等の手段により取付け、この枠部材20Aをコンソールボックス12の上面側に設けた開口部の12aの下面周縁部12bに掛止している。

(考案が解決しようとする課題)

かかる取付構造においては、枠部材 20 A が下面周縁部 12 b に掛止されているため開口部 12 a とレバーブーツ 11 間に隙間が生じ、当該隙間に埃が非常に溜り易い。また、コンソールボックス 12 は各車種共通に使用されることが多く、各車種によって開口部 12 a の大きさが異なることからこれに対処すべく開口部 12 a を打抜きにより形成されている。このため、コンソールボックス 12 の開口部 12 a の内周の稜線は比較的鋭く、かかる稜線を露呈させることは好ましくない。従って、本考案の目的はこれらの問題に対処することにある。

(課題を解決するための手段)

本考案は上記した形式のレバーブーツの取付構造において、前記枠部材として前記開口部の上面側周縁部に戴置される枠部と、同枠部から下方に突出し前記開口部の周縁部に設けた挿通穴に挿通されて掛止される複数の脚部を備えた枠部材を採用したことを特徴とするものである。

(考案の作用・効果)

かかる取付構造においては、レバーブーツの下端周縁部に取付けた枠部材がコンソールボックスの開口部の上面側周縁部に戴置されて、同枠部材およびこれと一体のレバーブーツの下端周縁部がコンソールボックスの上面側周縁部を、開口部の内周稜線から外側の所定幅の間を覆蓋する。このため、開口部とレバーブーツ間に隙間が生じることなく、かつ開口部の内周稜線が露呈することもない。

(実施例)

以下本考案の実施例を図面に基づいて説明するに、第1図には本考案の第1実施例に係る取付構造を採用したレバーブーツが示されている。

レバーブーツ11は合成皮革を縫合してなる四角錐状のもので、コンソールボックス12の上面側に取付られてシフトレバー13の軸部を傾動可能に被覆する。しかして、当該取付構造においては取付用の枠部材として第2図に示す枠部材20Bが採用されている。枠部材20Bは水平に延びる所定幅の四角形状の第1枠部21と、同枠部21

の内側縁から下方に延びる垂直状で所定高さの第2 枠部 2 2 と、第 1 枠部 2 1 の内側縁の隅部から下方に突出する 4 本の脚部 2 3 を一体的に備えたもので、レバーブーツ 1 1 の下端周縁部 1 1 a の内側面に接着剤を介して取付けられて同ブーツ 1 1 の下端周縁部 1 1 a の全体に位置している。各脚部 2 3 は矢尻の形状に形成されていて、基端細部にて容易に振じれるようになっている。かかる枠部材 2 0 B においては、第 3 図および第 4 図に示すようにコンソールボックス 1 2 の開口部 1 2 a に第 2 枠部 2 2 を嵌合しかつ同ボックス 1 2 の開口部 1 2 a の外周に設けた各挿通穴 1 2 b に各脚部 2 3 を挿通し、各脚部 2 3 を第 4 図の 2 点鎖線で示すように 90° 振る。これにより、枠部材 2 0 B およびこれと一体のレバーブーツ 1 1 の下端周縁部 1 1 a がコンソールボックス 1 2 の上面側開口周縁部 1 2 c を、開口部 1 2 a の内周稜線から外側の所定幅の間を覆蓋する。このため、コンソールボックス 1 2 の開口部 1 2 a とレバーブーツ 1 1 間に隙間が生じることはなく同隙間への

埃の溜りが解消され、かつ開口部 1 2 a の内周稜線の露呈が防止される。

第 5 図～第 7 図には枠部材 2 0 C を採用した取付構造が示されている。当該取付構造にて採用した枠部材 2 0 C は所定の太さの線材を四角形状に屈曲した枠部 2 4 と、同枠部 2 4 の隅部にそれぞれ固着された脚部 2 5 とからなり、レバーブーツ 1 1 の下端周縁部 1 1 a に取付けられている。かかる枠部材 2 0 C においては、各脚部 2 5 をコンソールボックス 1 2 の各挿通穴 1 2 b に挿通して掛止することにより、枠部 2 4 およびこれと一体のレバーブーツ 1 1 の下端周縁部 1 1 a がコンソールボックス 1 2 の上面側開口周縁部 1 2 c を覆蓋する。これにより、コンソールボックス 1 2 の開口部 1 2 a とレバーブーツ 1 1 間に隙間が生じることとはなく、かつ開口部 1 2 a の内周稜線が露呈することもない。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の第 1 実施例に係る取付構造を採用して取付けたレバーブーツの斜視図、第 2 図



は同取付構造に採用した枠部材の斜視図、第3図は第1図の矢印Ⅲ－Ⅲ線方向に見た縦断面図、第4図は第1図の矢印Ⅳ－Ⅳ線方向に見た縦断面図、第5図は第2実施例に係る取付構造に採用した枠部材の斜視図、第6図は同取付構造の第3図に対応する縦断面図、第7図は同取付構造の第4図に対応する縦断面図、第8図は従来の取付構造を採用して取付けたレバーブーツの斜視図、第9図は第8図のⅨ－Ⅸ線方向に見た縦断面図、第10図は第8図のⅩ－Ⅹ線方向に見た縦断面図である。

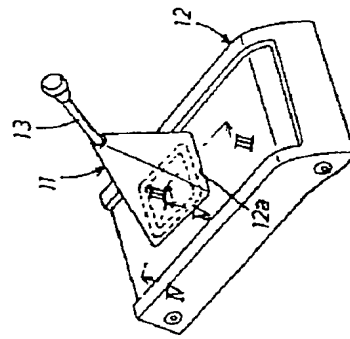
#### 符 号 の 説 明

11・・・レバーブーツ、11a・・・下端周縁部、12・・・コンソールボックス、12a・・・開口部、12b・・・挿通穴、12c・・・上面側開口周縁部、20A、20B、20C・・・枠部材、21、22、24・・・枠部、23、25・・・脚部。

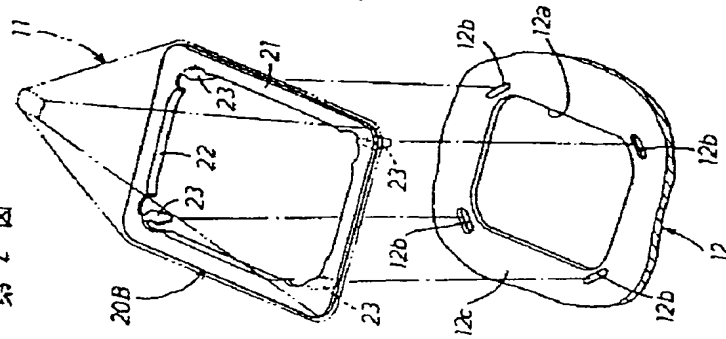
出願人	アラコ株式会社
代理人	弁理士 長谷照一（外1名）

- 11...レバーアーツ  
 11a...下周周縁部  
 12...コンソールボックス  
 12a...開口部  
 12b...側面穴  
 12c...上面開口部  
 20B...枠部  
 21、22...枠部  
 23...側部

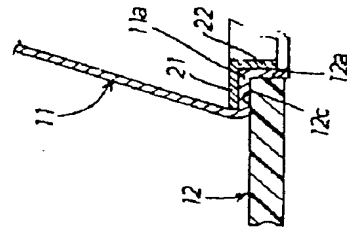
第1図



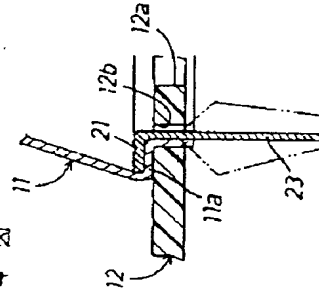
第2図



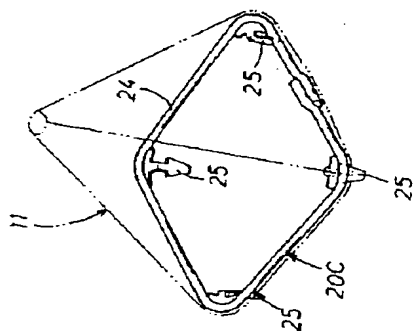
第3図



第4図

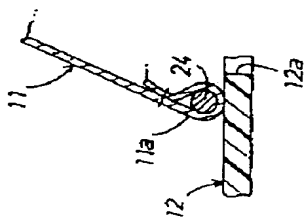


第 5 図

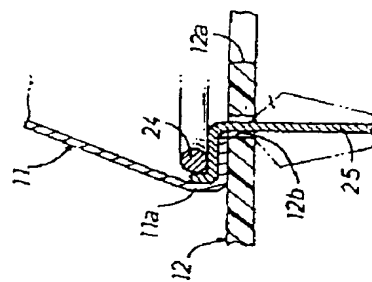


- 11...レバーアーム
- 11a...下端用輪部
- 12...コンソールボックス
- 12a...開口部
- 20A, 20C...内板材
- 24...外板
- 25...脚材

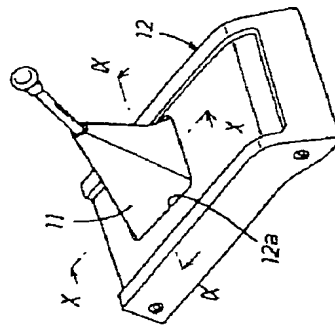
第 6 図



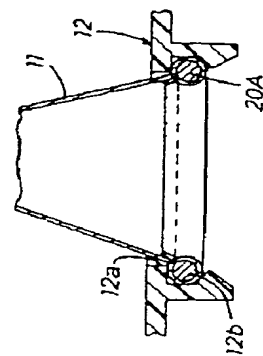
第 7 図



第 8 図



第 9 図



第 10 図

